

魅力と活力あふれる観光地へ

豊浦町観光地域づくりフォーラム

2月15日、地域交流センター「とわにー」で豊浦町観光地域づくりフォーラムが開催されました。

観光地域づくりコーディネーター組織の先駆的団体、和歌山県の田辺市熊野ツーリズムビューロの多田会長と小川事務局長による講演が行われ、「観光地域づくりコーディネーター組織(=DMO)とはなにか」について、地域の特色を生かした田辺市の取り組みから理解を深めました。



▲これまでの取り組みを振り返り、これからについて意見交換。

その後、「豊浦町の観光地域づくりのこれまでとこれから」について、国内・道内で活躍される方々と村井町長によるパネルディスカッションが行われました。「豊浦町は何が魅力なのか今一度丁寧に考え、100年先もぶれずにいること」「そこ(豊浦)に住む人がいて風景が完成する」など大変貴重なお話をいただき、村井町長は「小さなまちの新たな挑戦。“今だけ、ここだけ、あなただけ”豊浦しかないものを」と魅力と活力があふれる観光地を目指して、これからも挑戦しつづけることを誓いました。



▲町内外から約100名の方が参加しました。

文化の継承の大切さを学ぶ

アイヌ語地名とアイヌの伝承



▲民族衣装を着てアイヌ文化を説明する宇治会長

2月18日、中央公民館で「アイヌ語地名とアイヌの伝承」をテーマにした洞爺湖有珠山ジオパーク・パートナー講座が行われました。

豊浦アイヌ協会の宇治義之会長から昨年行われたアイヌの伝統儀式「カムイノミ・イチャルパ」を紹介しながら、「アイヌ語地名や伝統儀式を通して少しでもアイヌ文化に興味を持っていただければ、うれしいです」と話されました。

大きくなって帰ってきてね

インディアン水車公園にサケの稚魚



▲力いっぱい泳ぐサケの稚魚

2月下旬のインディアン水車公園に、昨年10月に採卵され、上泉・高岡のふ化施設で成長した多くのサケの稚魚が放流されていました。

体長5cmほどの小さな体で、川の激しい流れのなか力いっぱい泳ぐ姿が、施設のガラス越しに観察できました。春になると、群れで貫気別川を降り、大海原へと長い旅にでます。3～4年後、大きくなった姿を見せてくれることを願っています。